

2025年3月期 第1四半期 (2024年4月1日～2024年6月30日) 決算説明資料

2024年8月2日
IDEC株式会社
証券コード：6652



売上

■ 売上高 160億円 (前年同期比 $\triangle 12.2\%$)

- 国内外における流通在庫の影響により、売上は減少
- 前年同期比で売上高は減少したものの、受注高は4Q並み

利益

■ 営業利益 3億円 (前年同期比 $\triangle 83.6\%$)

■ 経常利益 5億円 (前年同期比 $\triangle 75.6\%$)

■ 四半期純利益[※] 3億円 (前年同期比 $\triangle 79.5\%$)

※親会社株主に帰属する四半期純利益

- 売上高の減少の影響などにより、利益も減少

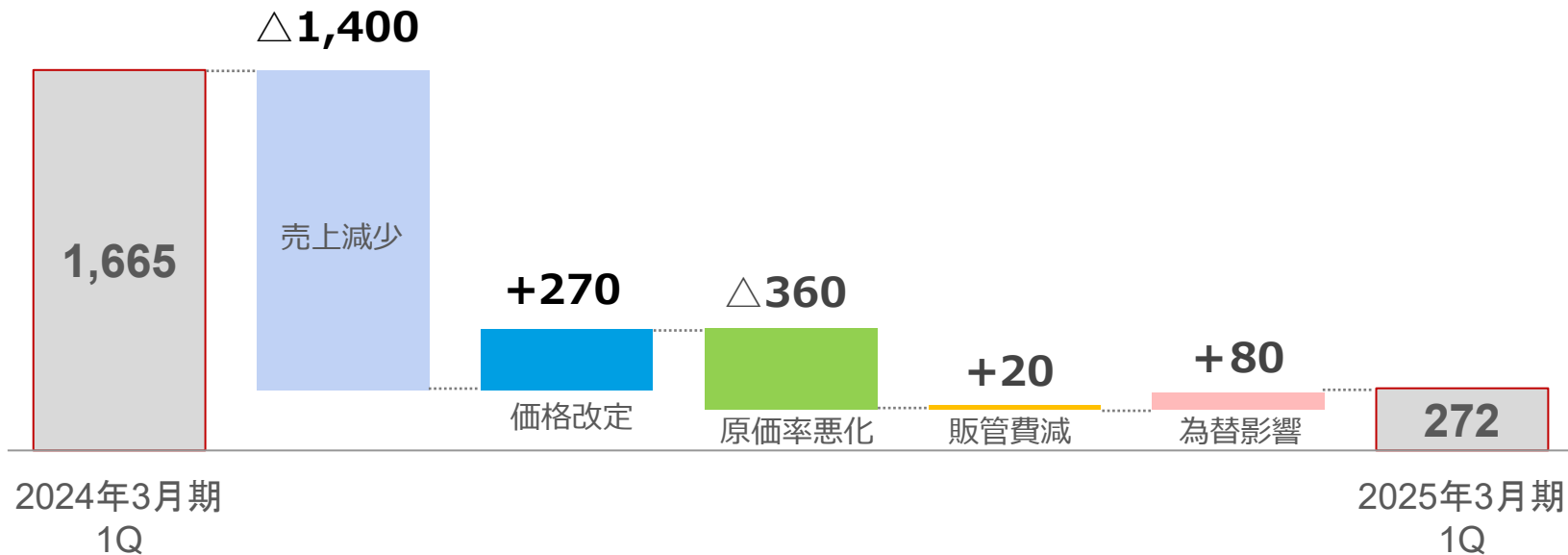
連結業績概要 <連結損益計算書> - 1



(単位：百万円) ※百万円未満切り捨て	2024年3月期 1Q		2025年3月期 1Q		
	実績	対売上比	実績	対売上比	前年同期比
売上高	18,180	100.0%	15,962	100.0%	△12.2%
売上総利益	7,900	43.5%	6,861	43.0%	△13.2%
販売費及び一般管理費	6,235	34.3%	6,589	41.3%	+ 5.7%
営業利益	1,665	9.2%	272	1.7%	△83.6%
経常利益	2,022	11.1%	494	3.1%	△75.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,467	8.1%	300	1.9%	△79.5%
1株当たり四半期純利益 (潜在株式調整前)	50.16円	—	10.21円	—	△39.95円
米ドル平均レート (円)	137.49円		155.86円		+18.37円
ユーロ平均レート (円)	149.58円		167.84円		+18.26円
人民元平均レート (円)	19.56円		21.47円		+ 1.91円

価格改定によるプラス効果があったものの、収益性の高い日本の売上減少や原価率の悪化の影響などにより、営業利益は前年同期比で約14億円減少

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て



連結業績概要 <連結損益計算書> -2



(単位：百万円) ※百万円未満切り捨て	2024年3月期								2025年3月期		
	1Q (4-6月)		2Q (7-9月)		3Q (10-12月)		4Q (1-3月)		1Q (4-6月)		
	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	実績	売上比	前年同期比
売上高	18,180	100.0%	19,620	100.0%	16,540	100.0%	18,370	100.0%	15,962	100.0%	△12.2%
売上総利益	7,900	43.5%	8,553	43.6%	6,848	41.4%	7,716	42.0%	6,861	43.0%	△13.2%
販売費及び 一般管理費	6,235	34.3%	6,172	31.5%	6,244	37.8%	6,090	33.2%	6,589	41.3%	+ 5.7%
営業利益	1,665	9.2%	2,381	12.1%	603	3.6%	1,625	8.9%	272	1.7%	△83.6%
経常利益	2,022	11.1%	2,507	12.8%	532	3.2%	1,858	10.1%	494	3.1%	△75.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,467	8.1%	1,706	8.7%	263	1.6%	969	5.3%	300	1.9%	△79.5%
1株当たり四半期純利益 (潜在株式調整前)	50.16円	—	58.14円	—	8.86円	—	32.94円	—	10.21円	—	△39.95円

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て (構成比)	2024年3月期 1Q	2025年3月期 1Q	前年 同期比
日本	6,681 (36.8%)	4,937 (30.9%)	△26.1%
海外	11,498 (63.2%)	11,025 (69.1%)	△ 4.1%
米州	3,707 (20.4%)	3,572 (22.4%)	△3.6%
EMEA (欧州、中東、アフリカ)	3,776 (20.7%)	3,977 (24.9%)	+ 5.3%
アジア・ パシフィック	4,015 (22.1%)	3,474 (21.8%)	△13.5%
合計	18,180 (100.0%)	15,962 (100.0%)	△12.2%

日本 前年同期比 **△26.1%**

- 主要産業での足踏み感や、流通在庫調整局面の影響もあり、売上は減少

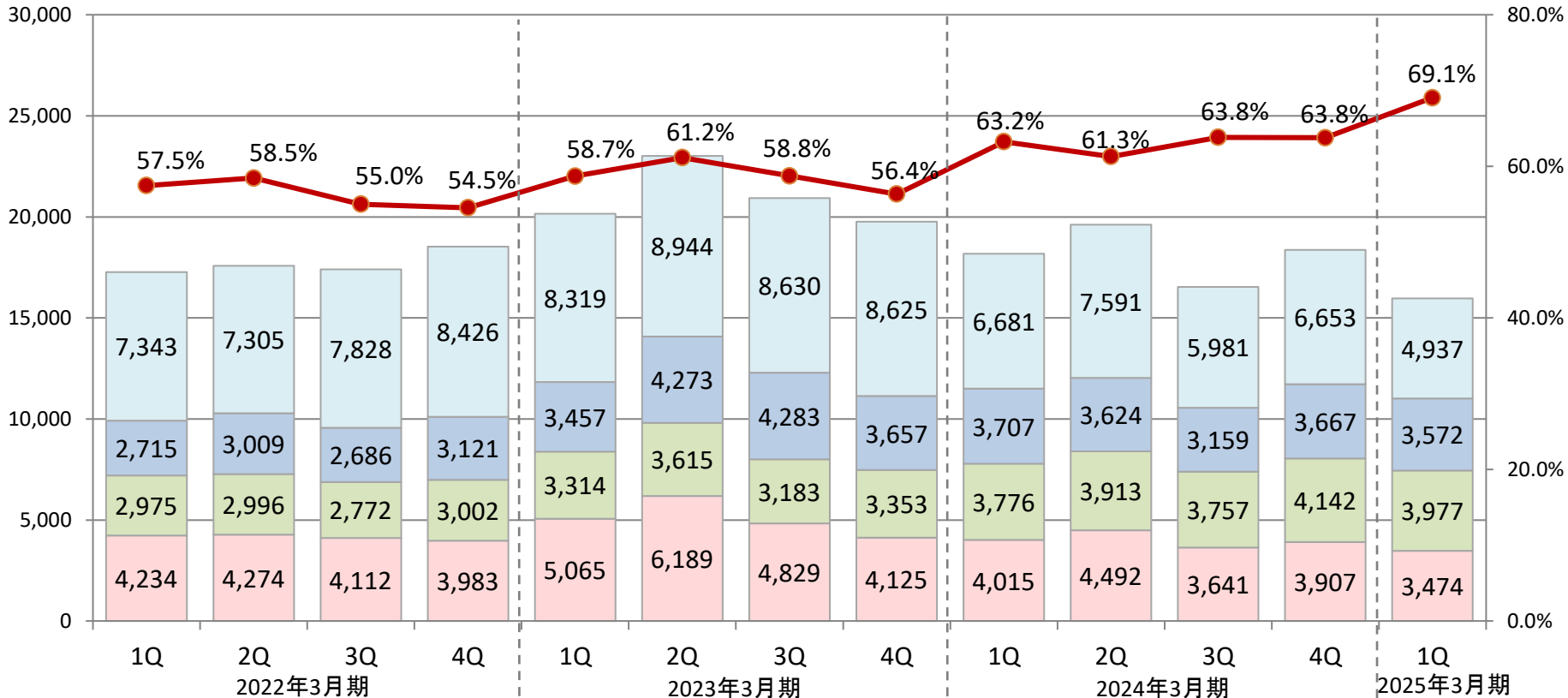
海外 前年同期比 **△ 4.1%**

- 米州の流通在庫は一定水準に落ち着いたものの、前年同期比では減少
- EMEAの現地通貨ベースの売上は減少したものの、円安の影響により円換算では増加
- アジア・パシフィックは、中国経済の景気減速の影響で売上は減少

仕向地別売上状況 (四半期推移)

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て

日本 米州 EMEA アジア・パシフィック 海外売上高比率



(単位：百万円) ※百万円未満切捨て (構成比)	2024年3月期 1Q	2025年3月期 1Q	前年 同期比
HMI事業	8,594 (47.3%)	8,149 (51.1%)	△ 5.2%
インダストリアルコンポーネンツ事業	2,948 (16.2%)	2,533 (15.9%)	△14.1%
オートメーション&センシング事業	2,341 (12.9%)	2,071 (13.0%)	△11.5%
安全・防爆事業	3,104 (17.1%)	2,350 (14.7%)	△24.3%
システム	911 (5.0%)	714 (4.5%)	△21.6%
その他	280 (1.5%)	142 (0.8%)	△49.1%
合計	18,180 (100.0%)	15,962 (100.0%)	△12.2%

HMI事業

スイッチやプログラマブル表示器が、日本、米州、アジア・パシフィックでの流通在庫調整の影響などにより減少

インダストリアルコンポーネンツ事業

主力の中国市場において制御用リレーなどの売上が減少

オートメーション&センシング事業

プログラマブルコントローラの受注残が減少したこともあり、売上は減少

安全・防爆事業

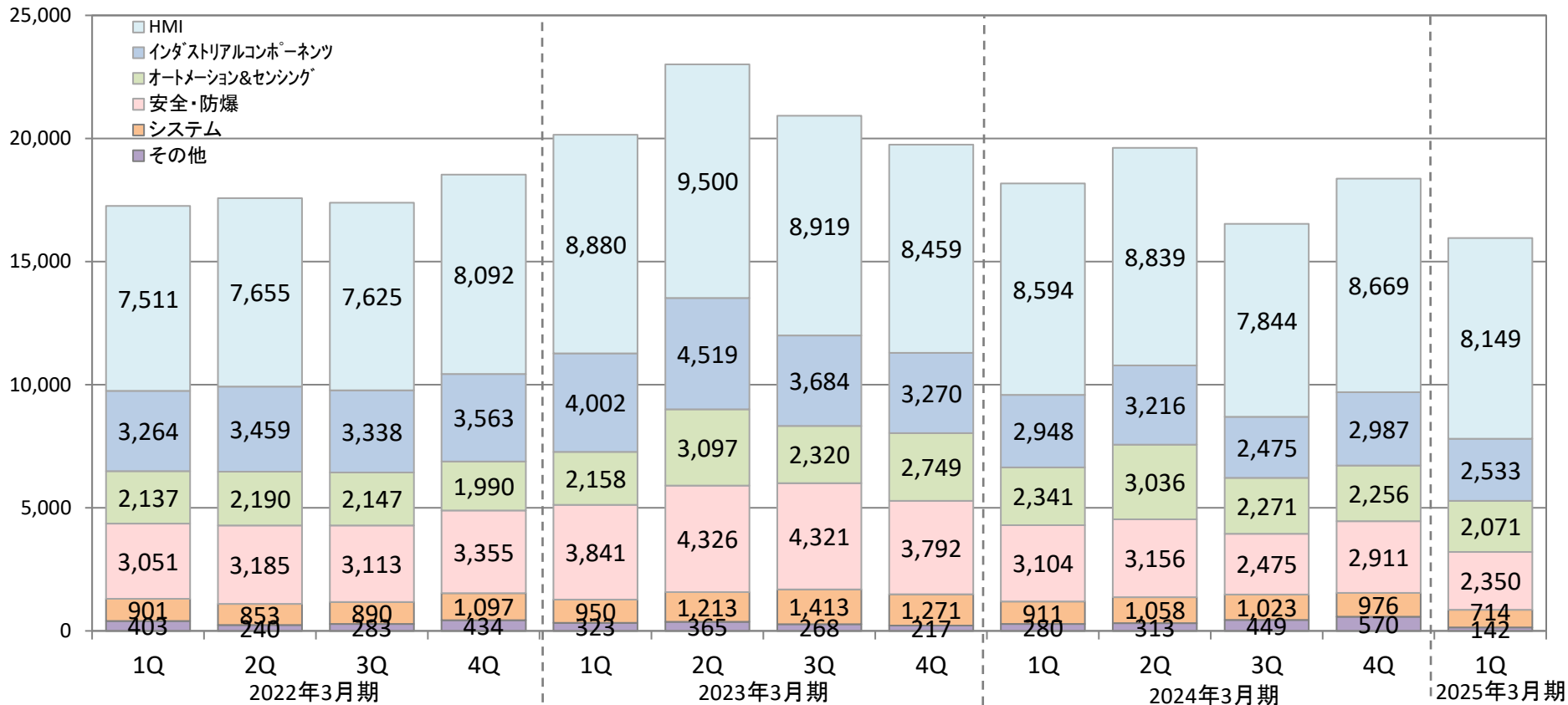
日本や中国市場を中心とした流通在庫調整や、半導体・工作機械など主要産業の需要が減少した影響で、安全関連機器が減少

システム

アジア・パシフィックで、半導体製造設備・物流関連設備などの制御盤の売上が減少

製品別売上状況 (四半期推移)

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て



単位：百万円 ※百万円未満切捨て	2024年3月期 1Q		2025年3月期 1Q			
	受注高	受注残高	受注高	前年同期比	受注残高	前年同期比
日本	6,550	12,329	6,551	+ 0.0%	7,013	△43.1%
米州	2,681	3,863	3,403	+26.9%	2,750	△28.8%
EMEA (欧州、中東、アフリカ)	4,164	9,947	4,136	△ 0.7%	8,038	△19.2%
アジア・ パシフィック	2,257	3,392	2,907	+28.8%	3,205	△ 5.5%
合計	15,655	29,532	16,999	+ 8.6%	21,008	△28.9%

受注状況 (四半期推移)

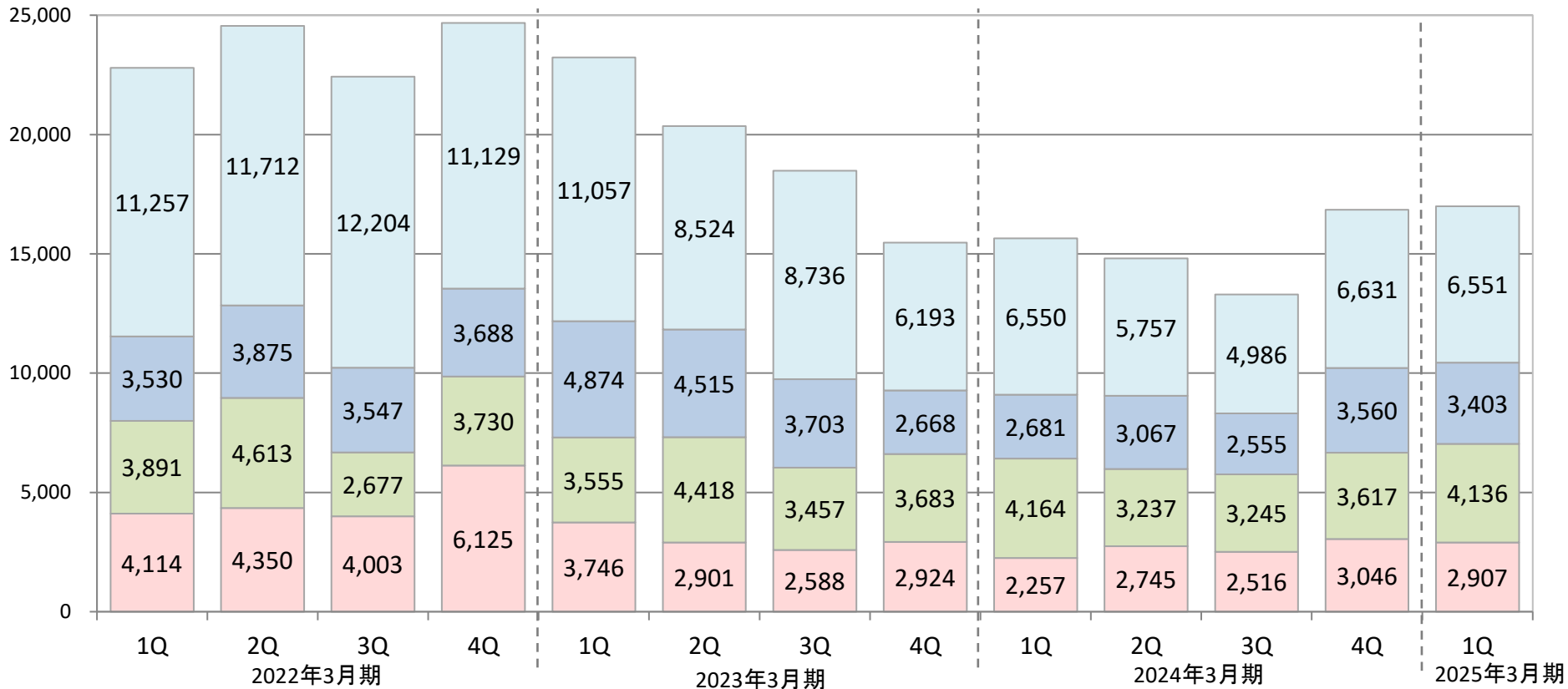
- 日本、米州は、流通在庫や市場環境などの影響から4Q比で横ばい傾向
- EMEAは円安の影響もあり1Qは比較的好調な一方、2Qは欧州の市場環境の影響もあり、不透明感がある

単位：百万円 ※百万円未満切捨て	2024年3期								2025年3期	
	1Q (4月～6月)		2Q (7月～9月)		3Q (10月～12月)		4Q (1月～3月)		1Q (4月～6月)	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高	受注高	受注残高
日本	6,550	12,329	5,757	9,140	4,986	7,012	6,631	6,135	6,551	7,013
米州	2,681	3,863	3,067	3,233	2,555	2,771	3,560	2,853	3,403	2,750
EMEA (欧州、中東、アフリカ)	4,164	9,947	3,237	9,340	3,245	8,641	3,617	7,993	4,136	8,038
アジア・ パシフィック	2,257	3,392	2,745	3,005	2,516	3,058	3,046	2,988	2,907	3,205
合計	15,655	29,532	14,808	24,720	13,305	21,485	16,856	19,971	16,999	21,008

受注状況 (四半期推移)

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て

□ 日本 □ 米州 □ EMEA □ アジア・パシフィック



資産のポイント

- 売上債権が減少した一方、固定資産や棚卸資産、現金及び預金が増加したことなどにより、総資産は前期末比9.5億円増加

負債のポイント

- 借入金が増加したことなどにより、負債は前期末比5.1億円減少

純資産のポイント

- 利益剰余金が増加したものの、為替換算調整勘定の増加などにより、純資産は前期末比14.6億円増加

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て	2024年3月期 (前会計年度)	2025年3月期 (6月末)	前会計年度末比 増減
流動資産	54,921	54,541	△ 379
固定資産	52,217	53,549	+1,332
流動負債	23,830	21,533	△2,297
固定負債	17,301	19,088	+1,787
純資産	66,006	67,469	+1,462
総資産	107,138	108,091	+ 952
自己資本比率	61.2%	62.0%	+0.8%

営業活動によるCF

- 売上債権及び契約資産や減価償却費の減少などにより約40.4億円

投資活動によるCF

- 有形固定資産の取得などにより約△3.5億円

財務活動によるCF

- 借入金の返済や配当金などの支出により約△33.1億円

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て	2024年3月期 1Q	2025年3月期 1Q	前期比増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	△414	4,036	+4,451
投資活動によるキャッシュ・フロー	78	△347	△ 425
フリー・キャッシュ・フロー (FCF)	△336	3,689	+4,026
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,327	△3,309	△ 982
現金及び現金同等物の期末残高	12,969	15,957	+2,987
設備投資額	928	854	△74
減価償却費	946	1,019	+73

2025年3月期の業績予想

2025年3月期 通期業績予想



(単位：百万円) ※百万円未満切り捨て	2024年3月期		2025年3月期		
	実績	対売上比	予想	対売上比	前期比
売上高	72,711	100.0%	71,700	100.0%	△ 1.4%
売上総利益	31,019	42.7%	31,200	43.5%	+ 0.6%
販売費及び一般管理費	24,743	34.0%	26,000	36.3%	+ 5.1%
営業利益	6,276	8.6%	5,200	7.3%	△17.1%
経常利益	6,920	9.5%	5,200	7.3%	△24.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,407	6.1%	4,000	5.6%	△ 9.2%
1株当たり当期純利益 (潜在株式調整前)	150.10円	—	136.23円	—	△13.87円
米ドル平均レート (円)	144.59円		148.00円		+ 3.41円
ユーロ平均レート (円)	156.74円		160.00円		+3.26円
人民元平均レート (円)	20.13円		20.50円		+0.37円

2025年3月期 通期業績予想

(単位：百万円) ※百万円未満切捨て	2024年3月期	2025年3月期	
	実績	予想	前期比
HMI事業	33,948	34,700	+ 2.2%
インダストリアルコンポーネンツ事業	11,629	11,000	△ 5.4%
オートメーション事業&センシング事業	9,904	9,900	△ 0.0%
安全・防爆事業	11,647	11,300	△ 3.0%
システム	3,969	3,200	△19.4%
その他	1,612	1,600	△ 0.8%
合 計	72,711	71,700	△ 1.4%
国内売上高	26,907	25,200	△ 6.3%
海外売上高	45,804	46,500	+ 1.5%
(海外比率)	(63.0%)	(64.9%)	△ 1.4%

統合報告書 (IDEC Report) の ご紹介

- 2024年版の統合報告書（IDEC Report）を発行
- 事業や業績に関する説明だけでなく、ESGなど非財務に関する情報も充実

(※詳細は下記よりご覧ください)

<https://jp.idec.com/idec-jp/ja/JPY/integrated-report-2024>



CEO Message



特集



取締役インタビュー

Contents

01

イントロダクション

- 1 バーバス
- 2 At a Glance
- 3 IDECの歴史

02

メッセージ



6 CEO Message

9 **特集**

安全・安心・ウェルビーイングの実現に向けて

03

価値創造ストーリー



- 14 価値創造プロセス
- 15 IDECが大切にしている6つの資本
- 16 IDECの強み
- 18 ステークホルダーへの提供価値

04

ビジョン実現に向けた取り組み



- 20 長期ビジョン
- 21 マテリアリティ
- 22 サステナビリティ目標と進捗状況
- 23 サステナビリティ推進方針・体制
- 24 中期経営計画
- 25 財務戦略
- 27 製造・DX戦略
- 28 知的資本戦略

05

事業戦略



- 31 グローバルマーケティング・製品戦略
- 33 各事業の実績
- 34 HMI (Human-Machine Interface) 事業
- 36 安全・防爆事業
- 37 インダストリアルコンポーネンツ事業
- 38 オートメーション&センシング事業
- 39 システム事業

06

価値創造を支える基盤



ガバナンス

- 41 取締役インタビュー
- 43 ガバナンス
- 48 役員紹介
- 50 社外取締役の活動
- 51 コンプライアンス
- 53 リスクマネジメント

環境

- 55 環境の取り組み

社会

- 60 人的資本
- 63 人権の尊重
- 66 サプライチェーンマネジメント

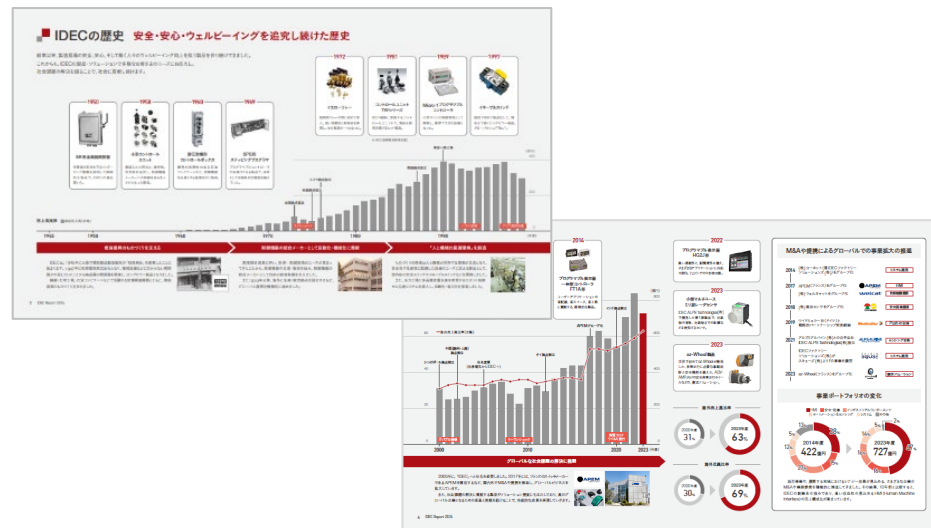
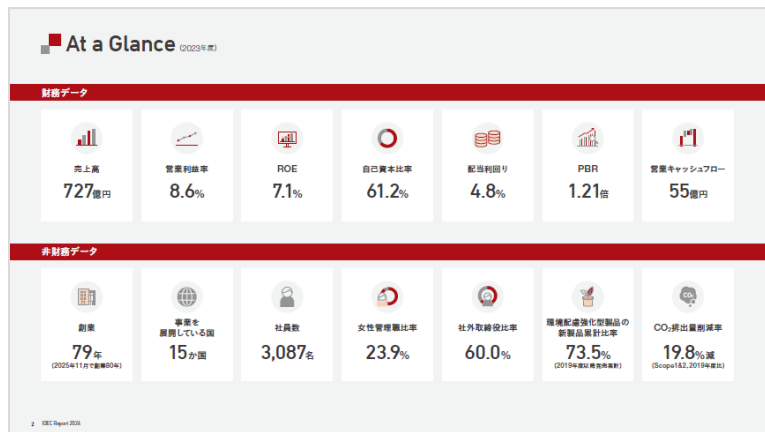
07

データ・会社概要



- 69 非財務データ
- 70 11年間の主要財務データ推移
- 71 財務データ
- 74 会社概要

- IDECの概要を知っていただけるよう、パーパス、At a Glance、歴史を冒頭に掲載
- 歴史ページでは、売上高、海外比率の推移や、最近のM&A・提携の状況をまとめてご紹介



■ IDECグループのパーパスである「安心・安全・ウェルビーイングの実現」に向けた各種取り組みを掲載

【掲載コンテンツ】

- 社員の健康維持増進・安全文化の構築
- Vision Zero活動の推進
- 安全人材の育成
- ウェルビーイングサーベイの実施
- 協調安全（Safety2.0）の推進
- 社会課題解決に貢献する製品・ソリューション

SAFETY

ANSHIN

WELBEING

特集 安全・安心・ウェルビーイングの実現に向けて

IDECは1945年に創業時として創業した当初より、「人権尊重経営」を掲げており、これがIDECのDNA（DNA）の基盤となります。

2017年に創出した経営理念「The IDEC Way」でも、Vision Mission Core Valuesの基盤として人間性尊重経営を位置づけ、社員のウェルビーイング向上のためのさまざまな取り組みを行っています。

また、「パーパスである「人と機械の協調性を促進し、世界中の人の安全・安心・ウェルビーイングを実現」のために、人は人を守るもの・機械は人を守るものという前提で、不測の事態でも「人命を守る」ことできる製品を製作するとともに、職人の安全かつ健康で、幸せに、生き生きと暮らすことができる社会の実現を目指しています。

Vision いつも、ずっと、みんなに安心・安全を
 Passer the next 50 for a safer and sustainable world.
 世界中の人を安心・安全に持続可能な社会に送り届けること。人と機械の協調性を促進し、世界中の人の安全・安心・ウェルビーイングを実現すること。

Mission 人と機械の協調性を促進し
 To create for a better environment for humans and machines.
 人と機械の協調性を促進し、世界中の人の安全・安心・ウェルビーイングを実現すること。人と機械の協調性を促進し、世界中の人の安全・安心・ウェルビーイングを実現すること。

Core Values
 誠実
 協働
 安全・安心・ウェルビーイング

Vision Zero活動の推進

「人命ゼロ」を目標とする。人命ゼロとは、人命が犠牲になることなく、安全に暮らすこと。人命ゼロとは、人命が犠牲になることなく、安全に暮らすこと。

2019年、経営理念「The IDEC Way」の推進の一環として、Vision Zero活動を開始しました。Vision Zeroとは、人命が犠牲になることなく、安全に暮らすこと。人命ゼロとは、人命が犠牲になることなく、安全に暮らすこと。

2020年、経営理念「The IDEC Way」の推進の一環として、Vision Zero活動を開始しました。Vision Zeroとは、人命が犠牲になることなく、安全に暮らすこと。人命ゼロとは、人命が犠牲になることなく、安全に暮らすこと。

Safety 2.0

協調安全（Safety 2.0）とは、人と機械の協調性を促進し、世界中の人の安全・安心・ウェルビーイングを実現すること。協調安全（Safety 2.0）とは、人と機械の協調性を促進し、世界中の人の安全・安心・ウェルビーイングを実現すること。

■ 社外取締役と社内取締役は、女性マネージャー2名がインタビュー ■ コンプライアンス、リスクマネジメントなどの情報をさらに拡充

■ 取締役インタビュー

社外取締役である小林浩氏は、2023年に取締役になった最新筆頭筆頭に、社長代表として、役員報酬会議委員 兼「活動グループ」メンバーの高橋希香と、コーポレートコミュニケーション室 室長の死田雅博がインタビューして話を聞きました。

■ IDECの取締役会の構成

取締役などをどのように評価されていますか。

■ **小林浩** 社外取締役と女性取締役の存在が、ガバナンスの良し悪しを判断いたします。取締役を形式的にこなしているのではなく、皆さん思ったことを積極的に、自由に発言されている点も高く評価です。

■ **高橋希香** 人が取締役になると責任が重くなります。社内取締役の立場から見ても、社外取締役の皆さんに形式的に参加しただけではなく、率直の意見を述べられている点も高く評価です。特に高橋希香さんには、女性ならではの柔軟性を評価して、責任に即応するアドバイスをいただければ、それだけ専門分野からの建設的で的確なご意見が伺えます。特に建設的ご意見に御答へさせていただきます。

■ **死田雅博** 取締役としては、経営会議を通じて取締役会の資料に反映されているので詳しく御話があると思います。本提案はほぼ必ずしも採用されるものではありません。

■ **高橋希香** 社外取締役の方にもっとより責任を押しつけて、期待していただける体制には感謝しています。

2023年に社外取締役が新たに加わりました。小林浩様には、次世代幹部育成プログラムにご参加いただき、またご講演を拝見いたしました。また、社外取締役がプログラムを受講して、どのような感じられましたか。

■ **小林浩** 改めてお話しただけで御話して、実際に参加してみたいという気持ちがありました。

■ **高橋希香** 「期待感を持って話を聞かされたこと、その中で「会社全体の目標を考えた上で、自分の所でできる範囲で責任を担ってほしい」ということを強調していただき、期待に応えたいという気持ちがあります。

■ **死田雅博** そうでした。好奇心や意欲が高く、熱心に取り組んでいただく姿勢が印象的でした。期待に応えたいという気持ちを持っていただくことが重要だと思いますので、取締役への支持を得ていることが重要だと感じたので、取締役への期待について話を伺ったことがきっかけです。

■ **高橋希香** あいづちです。期待に応えられるように、これから一層頑張ります。

■ **小林浩** 期待に応えることと申し上げていいですが、期待を背負って責任を担っていただく体制には感謝しています。



取締役インタビューとして初めて社外取締役の大久保下之氏がコメントをお寄せくださいました。

生かして、責任を背負って責任を担っていただく体制には感謝しています。

■ **高橋希香** 社外取締役の方にもっとより責任を押しつけて、期待していただける体制には感謝しています。

■ **死田雅博** そうでした。好奇心や意欲が高く、熱心に取り組んでいただく姿勢が印象的でした。期待に応えたいという気持ちを持っていただくことが重要だと感じたので、取締役への支持を得ていることが重要だと感じたので、取締役への期待について話を伺ったことがきっかけです。

■ **高橋希香** あいづちです。期待に応えられるように、これから一層頑張ります。

■ **小林浩** 期待に応えることと申し上げていいですが、期待を背負って責任を担っていただく体制には感謝しています。



■ IDECのガバナンスの特色



■ 女性性の高いガバナンスを推進して



■ 取締役会投資活動評価を2016年より継続実施



■ ガバナンスの進化

取締役報酬の公平性向上と取締役の多様な意見の反映を目的に、取締役の報酬を改善するとともに、専ら社外取締役が候補に指名された。2017年以降は専ら社外取締役が候補に指名された。2018年度は2017年度より専ら社外取締役が候補に指名された。2019年度は2018年度より専ら社外取締役が候補に指名された。2020年度は2019年度より専ら社外取締役が候補に指名された。2021年度は2020年度より専ら社外取締役が候補に指名された。2022年度は2021年度より専ら社外取締役が候補に指名された。2023年度は2022年度より専ら社外取締役が候補に指名された。

年次	社外取締役比率 (%)	女性取締役比率 (%)
2016	50	20
2017	50	20
2018	50	20
2019	50	20
2020	50	20
2021	50	20
2022	50	20
2023	50	20

■ 継続的な取り組みにより、各種インデックスへの組み入れを実現

- FTSEのインデックスに2022年から3年連続で選定
- 2024年に、Morningstar日本株式ジェンダー・ダイバーシティ・ティルト指数（除くREIT）の構成銘柄に、5段階の中で最高位評価となる「グループ1」として選定
- S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数に加え、JPX日経中小型株指数にも選定



FTSE Blossom
Japan Index



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

MORNINGSTAR GenDi J

Japan ex-REIT Gender Diversity
Tilt Index

TOP CONSTITUENT 2024

2024



Sompo Sustainability Index



JPX-NIKKEI Mid Small

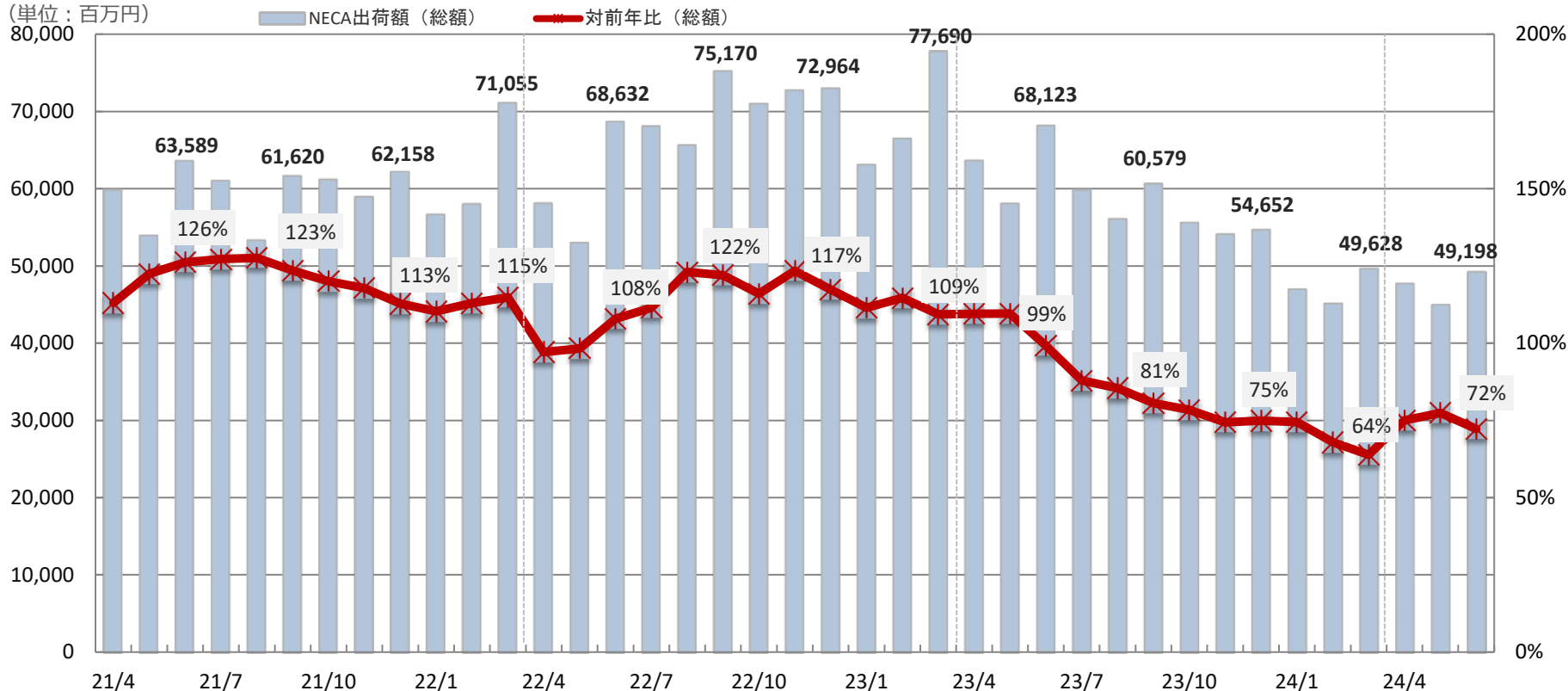


參考資料

通貨	1Q実績	1円変動による影響額 ※人民元は0.1円変動の影響額	
		売上高	営業利益
米ドル	155.86円	約50百万円	約5百万円
ユーロ	167.84円	約130百万円	約10百万円
人民元	21.47円	約30百万円	約20百万円

21年4月～24年6月の業界出荷額推移と対前年比の状況

(単位: 百万円)



HMI	インダストリアル コンポーネツ	オートメーション& センシング	安全・防爆	システム	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・制御用操作スイッチ ・ジョイスティック ・表示灯 ・プログラマブル表示器  <p>APEM製品</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スイッチング電源 ・端子台 ・制御用リレー/ソケット ・サーキットプロテクタ ・産業用LED照明 	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラマブルコントローラ ・センサ ・自動認識機器 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全関連機器 ・防爆関連機器 	<ul style="list-style-type: none"> ・協働ロボットシステム ・表示器複合システム ・セキュリティシステム ・その他各種システム 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境・エネルギー関連事業 

この資料には一部当社の計画や業績予想が含まれていますが、それらの計画や予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が計画、予想したものです。

従って、実際の業績などは、今後さまざまな要因によって計画、予想数値と異なる結果となる可能性があります。

IDEC株式会社

経営戦略企画本部

TEL : 06-6398-2505

FAX : 06-6398-2587

E-mail : yasuyuki.ogawa@idec.com

